

歴史探訪

クラブ! 其の136

History Inquiry Club



文化財課 ☎23局 3635
FAX 22局 3811

感激の対面 藤原頭長銘の壺

梅雨入りした6月、静岡県三島市にある個人のお宅に所蔵されている平安時代の壺の見学に行きました。その壺は、国指定史跡の大アラコ古窯跡(芦町)で焼かれたことがわかっていました。前回お知らせした東大寺瓦もそうですが、大まかな産地は分かっても、焼いた窯が分かるといことは、奇跡に近いことなのです。この壺は、先代と今のご当主が耕作中に見つけたものです。掘り出した時には、土製の蓋がかぶせられ、

壺に接して鉄の小刀、銅の鏡、火打ち石がありました。壺が埋められた平安時代の終わりは、人々は世の末を恐れ、極楽浄土を願い、寺院の建立や経の書写、埋納経などが盛んに行われていました。これは、当時のそのような願いによって作られた、経文を埋めた塚「経塚」であったようです。そして、鏡や刀が入れられたのは、その大事なお経を守るためのまじないです。

壺は高さ39cm、茶色で、見た目はそれほど高級な焼き物には見えませんが、壺の口部分はわざと打ち欠いたため残っていません。しかし壺に

は「正五位下行兵部大輔 兼三河国守藤原朝臣頭長 藤原氏比丘尼源氏 道守尊靈 從五位下 惟宗朝臣遠清 藤原氏 惟宗氏 内蔵氏 惟宗尊靈 惟宗氏尊靈 藤原尊靈」と文字が刻まれ、藤原頭長をはじめとする四家と祖先の名が連なっています。頭長は三河の国司を務めており、自分が治めていた国の焼き物の窯場「大アラコ窯」で、文字を刻ませ壺を作ったのです。

この頭長の壺は、山梨県南都町、三島市、神奈川県綾瀬市など富士山周辺で集中して発見されています。その訳は、次のように考えられています。



▲藤原頭長銘の壺

平安時代の終わりに盛んだった富士山信仰の信者の一人に、当時の権力者、鳥羽法皇がいました。法皇に公私ともに近い立場で

あった頭長は、法皇の埋納の意向をくんで壺を作り、富士山周辺に経塚を作ったのではといわれています。

私は三島市で、平安時代の都の人たちの願いが詰まった壺との感激のひとつを過ごしました。素朴な見た目とは違い、その歴史は深く重いものでした。十分な見学を終え、ご当主と壺について思いを巡らせていました。そして、世間話の中で、現在のご当主の息子さんは、農業研修のため、渥美半島の農家で半年間勉強したとお聞きしました。不思議な縁を感じずにはいられません。平成25年の秋の特別展には、この渥美窯の優品が800年ぶりに渥美半島に里帰りします。(増山)

今月の「表紙」

▼アカウミガメの産卵が見られると聞き、赤羽根海岸へ通った私。早起きが苦手なはずなのに、午前3時に起きて海へ。アカウミガメは、暗くて静かできれいな海岸に卵を産むそうです。ようやく5日目に、産卵後、海へと帰っていくアカウミガメに出会えたときは、本当に感動しました。(O)

【表紙の写真】産卵後のアカウミガメ(赤羽根海岸)